

令和7年（2025年）1月27日

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市国民健康保険運営協議会
会長 柏木 武彦

令和5年（2023年）11月9日開催の令和5年度小田原市国民健康保険運営協議会第3回協議会の概要を次のとおり報告します。

1 日 時 令和5年11月9日（木）午後1時30分から午後3時50分まで

2 場 所 小田原市生涯学習センターけやき 4階 第2会議室

3 出席者

委 員	湯川 増夫	
〃	田中 由美子	
〃	杉浦 史朗	
〃	西山 節子	
〃	曾根 秀明	
〃	漆畑 俊哉	
〃	岡田 健	
〃	小川 恭弘	
〃	柏木 武彦（会長）	
〃	鈴木 靖隆	
事務局	福祉健康部長	鈴木 裕一
〃	福祉健康部副部長	吉田 文幸
〃	保険課長	齊藤 泉
〃	保険課副課長	片野 宏泰
〃	保険課副課長	横山 浩史
〃	保険課国民健康保険係長	久保 賢太郎
説明員	健康づくり課担当課長	井澤 由美子
〃	健康づくり課主任	鈴木 創

〃 健康づくり課主事 岩山 俊幸
欠席者 委 員 鈴木 正彦
〃 川越 三洋
〃 長谷川 嘉春（副会長）
傍聴者 なし

4 議題

(1) その他

ア 片浦診療所のあり方に係る検討について

(ア) 講演

「へき地医療の現状とこれから」

講師 公益財団法人地域医療振興協会副理事長 山田 隆司氏

(イ) 今後の進め方等について

イ 第3期データヘルス計画の策定について

5 会議の概要

1 議題

(1) その他

ア 片浦診療所のあり方に係る検討について

(ア) 講演 「へき地医療の現状とこれから」

質疑等

柏木会長

へき地の診療所と一般の診療所とで、運営方法に違いはあるか。

講師

大きな医療機関では専門的な医療や手術といったしっかりした結果が残るものが求められるため、専門医を集めることになる。一方、地域の医療では、高度先端医療よりも、総合医や総合医でなくても内科であれば内科全般を診られるような医師の配置が求められている。

岡田委員

かかりつけ医と総合医とは違いがあるか。

講師

ほぼ同じである。ただ、日本ではこれまで専門医をしていた人が開業してかかりつけ医になるパターンが多く、総合医的な素養をもつ医師ばかりでないので、かかりつけ医は総合医としてのトレーニングをする機会があったほうが良いと思う。

曾根委員

現在片浦診療所で往診対応ができているのか。

講師

現状ではできていない。ただ、担える仕組みづくりができれば、数人の医師と看護師で対応できるものである。近隣地域の医療機関と連携すれば、そこまでの負担なくできる仕組みは作れるのではないかと。

漆畑委員

疾病ごとに別の医療機関にかかって、結果多量の薬が処方されるケースを薬剤師としてよく目にするが、薬剤師の視点でへき地医療の薬剤をどのように見るべきか。

講師

それぞれの医師から重なった処方がされることはよく見られるが、医師の処方意図やそれぞれの薬の優先度等はわからないので、薬剤師からフィードバックしてくれるとありがたい。

(イ) 今後の進め方等について

前回の片浦診療所の現地視察を踏まえて、委員から意見をうかがう

曾根委員

施設自体がかなり老朽化していると思うが、それを踏まえて、小田原市としてはこの施設を閉院したいのか、改修して新しい施設を整えたいのか、方向性を明らかにしてもらってから議論したい。

事務局

昨年度から、この協議会で診療所の概要等基本的事項を説明させていただいているが、市としてこの施設をどうしていくかを含めて、今後のあり方を

協議会の中で検討いただきたいというのが市の考え方である。現在、市として方針があるわけではない。

杉浦委員

建築から約70年ということと、患者のほとんどが65歳以上という資料を基に現地を見ると、非常に老朽化した施設だなというのは皆さん一致したのではないかと思う。また、薬の在庫量が足りているのだろうかと感じた。逆に、老朽化はしていても、地域の人にとっては、安心できる場所、心のよりどころのような場所になっているのではないか。地域の人的心愿と、医療スタッフがどう感じているのかも知りたい。

漆畑委員

老朽化の問題は待ったなし、と感じた。小田原市の医療を守るべき小田原医師会の意見を教えてもらいたい。

事務局

協議会の委員に医師会から2名参画していただいているが、片浦診療所についての医師会としての意見は、現状では聞き取りできていない。

漆畑委員

片浦地区の医療問題には医師会の協力や中核病院の連携が必要で、診療所だけが単独であればいいという問題ではないと考えていて、やはり医師会の意見を頂戴したい。

小田原市全体の市民の理解も必要なので、問題点を抽出したうえで議論を開始したい。

事務局

今後、片浦診療所のあり方を検討するにあたり、地元の住民の方たちから地域の実情や求められる医療体制について意見や考えをうかがえればと考えている。地元の方などとも調整し、調査方法をどのような形で進めていくかを決めていき、次回の第4回小田原市国民健康保険運営協議会でお示ししていきたい。

イ 第3期データヘルス計画の策定について

資料の訂正：資料2-2 1枚目 アウトカム指標・特定健康診査受診率の評価
誤：A → 正：B

説明（説明員から資料2に基づき説明）

質疑等

岡田委員

第2期小田原市健康増進計画とデータヘルス計画との関係はどのようになっているか。小田原市健康増進計画にデータヘルス計画が内包されているということか。

説明員

小田原市健康増進計画の方針に従って、データヘルス計画を策定していく、という位置づけになっている。計画は別になっており、健康増進計画に関連して、データヘルス計画がある。

第2期データヘルス計画で「基本的な考え方は「小田原市健康増進計画」に沿って策定する」としている。

岡田委員

関係部門と十分連携をとって進めてもらいたい。

曾根委員

第2期データヘルス計画の評価を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響による増減はないようだが、影響を受けていないのか。

説明員

令和2年度の実績を見ると、若干令和元年度より特定健康診査受診率と特定保健指導実施率が下がっている。このときは国の方針により特定健診の開始時期が遅れた。その後適切な健診受診を促すという方針になり、本市でもそうした取組をした結果、若干受診控えはあったかと思うが、3年度、4年度には回復してきたとの実感を持っている。

曾根委員

自身の健康に無関心な方々に対し、いかに意識を向けさせるかは大きな課題だと思っている。

以上